

8月17日～20日まで東日本大震災ボランティアに参加した生徒が、2学期始業式において全校生徒へ報告しました。

東北ボランティアについて

2014.8/17-8/20



おはようございます。

私たちは8月の17日から20日まで東北のボランティアに行ってきました。

1学期の終業式の時、突然校長に「始業式で発表してもらおうよー」っていわれたので「ええええ」と思っていたのですが、これは伝えないとあかんと思うようになり、この場を借りて発表させていただきます。

8/18 岩手県大槌町にて



東日本大震災での
死者853人
行方不明者431人

まず、17日の午後5時に豊中市役所を出発し、17時間と12分、つまりバス泊をして18日の午前10時頃大槌町役場に到着しました。大槌町の役場は津波の被害を受け、今は小学校の校舎を利用しています。旧役場は当時のまま残してあります。

これがいまの旧役場の様子です。

大植町旧役場



そこで土嚢作りのお手伝いをしました。これがその様子です。

土嚢作り

川をせき止めたり
土砂をふさいだり...



次に、大槌高校の方と交流しました。大槌高校は当時、校内が一部行政施設になっていました。

大槌高校との交流



私が話をさせてもらったのは当時小6だった男の子たちで、震災があったときは学校があり、自分や兄弟は他の仲間と一緒に逃げ、無事だったと聞きました。でも、両親は仕事だったのでなかなか会えず、不安な夜をすごしました。

避難所を転々としているときに偶然家族と再会できたのは、震災から3日後のことだったそうです。

私が小6のときにそんな不安な日を送ることになったら…と考えたら、とてもじゃないけど冷静にはなれず逃げ出したい気持ちでいっぱいになっただろうなと思いました。でも、そんな経験をした子たちの意志の強さはすごいものでした。将来のことも聞くと、まず復興の手伝いができるようなことがしたい、大学に行くにはここを離れるけどまた戻ってきたいと言っていました。その前向きな気持ちに勇気づけられた気がしました。

大槌町の様子

大槌町では盛土をしています
まだたてものを建て始めたところです



夜、大槌町役員の平野さんのお話を聞きました。

3月11日、彼は大槌町役場の4畳半の屋上に避難し、助かったそうです。「生き残れた。」ではなく、「生き残ってしまった。」とおっしゃっていたのが印象的でした。自衛隊から運ばれてくる遺体には髪も眉毛も服もなく、体に瓦礫が刺さっているものも沢山あり、遺体と呼べるものではありませんでした。

大槌町の様子

ひよっこりひょうたん島の
モデルになったところです



この高台に
避難しました

彼の部下にも、震災では生き残ったのに、心を病んでしまい亡くなった人が何人もいました。ある職員に、400人分の遺体から、母親を探し出した方がいたそうです。でも、母親をみつけた後、眠るたびにその400人の顔が「助けて」と呼びかけてきて精神を病んでしまい、何も無いまっすぐな道路で電柱にぶつかり亡くなりました。

震災で消えた町の復興を急ぐことももちろん大切ですが、心に大きな傷を負った人たちの心の復興をすることも大事です。

大槌町は今、やっと建物を壊し終わり、一から建物を作る時期にあります。しかし、雇って来てくれる建築会社もボランティアの人数も減ってきていることが大きな問題です。

8/19 釜石市の仮設住宅にて



東日本大震災での
死者989人
行方不明者152人

19日に仮設住宅のかたと交流させていただきました。

私がお話を聞いた阿部さんは、津波で家を流され、家族に再会できたのが2日後でした。自分は死んだと思われていたそうです。以前は海でつりをするのが好きでしたが、震災後は海を見ることが怖くなるようになってしまいました。大好きなものが怖くなるほど、阿部さんにとってこの震災は恐ろしいものだったそうです。

他の仮設住宅の方は、「救援物資が平等に受け取れなかった」というお話をしてくれました。車も流されてしまったので、物資を配っている場所までなかなか足が伸びなかった為です。中には、被害を受けてない人が物資をもらったりしていたそうです。そんなことがあるので、釜石市では被災者届けを見せないと物資をもらえないシステムが作られました。

仮設住宅での生活は、音漏れがひどく、それをストレスに感じている人が多いようです。しかし、新しいコミュニティが出来上がってきていて、今の生活を楽しんでおられる方もいらっしゃいました。

陸前高田市にて



東日本大震災での
死者1599人
行方不明者215人

陸前高田市に行き、戸羽市長にお話を聞きました。

東日本大震災により、陸前高田市では死者が1599人、行方不明者が215人いらっしゃいます。3年たった今、行方不明者の数はほとんど変わりません。

陸前高田市の様子

海岸に建築物を建てない政策を行っています
山のほうに復興住宅を建てています



空中ベルトコンベア

これがあることで
6年もの時間を短縮できます
申を女子のフルマラソンと
同じくらいの速さで土砂が流れています



陸前高田は町の復興が進んでいて、土砂を運ぶベルトコンベアがあります。

そのほかにも、人が亡くなっていない建物や、奇跡の一本松を残すことを早くから決めていました。

奇跡の一本松

7万本あった松林の中で
一本だけ残りました
他の松よりも
背が高かったことが
理由のひとつと考えられます



市長は、被災者でさえ震災を忘れていっている現状を情けなく思われています。夜中に津波警報を出すと「何時だと思っているんだ」と苦情が来るそうです。しかし私は、苦しい記憶を忘れることが出来るのも人間の能力だと思うのです。被災者だから忘れるな、というのは、責任の押し付けのようにも捉えることが出来るのではないのでしょうか。東日本大震災のことは、その時代に生きていた人達みんなが覚えておかななくてはならないことです。

最終日の20日は朝の6時に出発し、夜の8時半ごろに大阪に帰ってきました。

まとめ



これが私たちの4日間です。私はこの4日で多くのことを学びました。まず今、必ず大きな災害が関西に来るといわれています。それが来たとき、中心になって動かなくてはならないのは私たちのような若い人達だといわれました。では何が出来て、何をすべきなのか、大槌町の平野さんは、笑顔でいることだとおっしゃっていました。交流させていただいた高校生も、前向きな人が多かったから避難所生活が楽しかったといっていました。私たちが前向きでいることで、前向きになれる人がいます。今やるべきは、テレビやネットの情報は憶測でしかないので信じすぎないこと、つねに災害へ意識を向けること、災害への対策を怠らないこと、3.11を伝えることです。

まだまだまだまだあるのですが、続きは文化祭での発表のためにとらせていただきます。

長い間聞いてくださってありがとうございました！